それでも子どもは減っていく【目次】

プロローグ　007

第一章　花開く「少子化論争」　017

働く女性の支援と「少子化対策」――初期の方針／「多産奨励対策」への批判／人口減少社会の制度設計――少子化を受け止めて／産まない選択をする人々／現行の「少子化論争」をめぐって

第二章　「子ども削減」の系譜　059

1　近代以前の「子ども削減」策　063

間引きと子おろし／江戸のマルサス――本多利明の人口論

2 近代以降の問題 079
堕胎罪の成立／マーガレット・サンガーの来日とその影響／日本の産児制限運動――啓蒙と実践／産児制限論の運命

第三章 女性と母性の拮抗 095
1 女性にとっての「子ども」――「私的所有物」か「公共的財産」か 099
母性保護論争と避妊問題／女性の主体性と産児制限
2 底辺層からの声 112
女性の社会化／農村における「母性」と「乳幼児死亡率」
3 母性観の現代 127
母性という神話／母性は武器となり得るか？――迷走する「母性」

第四章 「子どもの発見」と児童の世紀 139

「科学」される子ども／「学校の生徒」となる子ども／「数字」で計られる子ども／「子ども消費者」の発見／「死なない子ども」の誕生

第五章 「子ども」の存在意義 171

1 「効用」という尺度で計られるとき 176

子どもの人権意識の進展と経済効用の失墜／「子ども消費者」の経済効用／「少子化」と消費の動向

2 当事者として「いま、子どもであること」 192

社会における「生成変化」の体現者として／文化を先取るもの／子どもにとっての「少子社会」

エピローグ 220